



小林市子 議員

都市計画・土地利用を計画的に見直しと共に、その対策の進め方は

農業振興整備計画の見直し案を作成している。

質問…都市計画道路の見直しと共に、計画的な土地利用や都市計画の新たな指針について検討を進める考えは。

町長…新しい都市計画道路案は、地元説明会で説明した。反対意見もなかった。その案で県に申請する。都市計画区域の活用については、時間をかけて計画を立てていく。

副町長…町の土地利用の上位計画である国土利用計画も古くなってきた。見直しも含め考えている。

質問…構造改善が行われなかった農地の荒廃化への対策は。

町長…農業振興地域に指定されている青地の農地は、農業振興整備計画

見直しの年でもあり、新たな案を作成している。基本的には集落内にある青地を農地転用可能な白地に転換するよう検討している。しかし、農地は農水省と産業課、都市計画は国土交通省と建設課というように縦割り行政の弊害もあり、農地転用と都市計画を結びつけて検討することは難しい状況だ。

質問…国道20号線とJRの間の土地、俗称「吉原田んぼ」は地権者も多く構造改善計画から外れてしまったこともあり、河川よりJR側は林地化が進み、国道側は無計画な土地利用となっている。一体的に整備をしていくべきではないか。

建設課長…吉原の土地に関しては地権者と業者の間の取り決めがあり、町は関与していない。現在は河川の工事、造成等何も決まっていないため、中途半端な状態になっている。地権者の意見も聞きながら検討していきたい。

質問…富士見町は園芸栽培に適していると思われるが、園芸業者を誘致する考えはあるか。

町長…法人パッケージ等で積極的に誘致することを考えている。

□その他の質問

*後期基本計画(まちづくり・地域づくり)について 他



宮下伸悟 議員

富士見中の教員定数減 町のバックアップ強化を

現状とおりの予算で「教育の町ふじみ」継続を

質問…入学予定者数の減少で、富士見中の教員定数は来年度1〜2減となる。現状、町単独で4名の教員を加配しているが、県の加配2名が来年度は不透明な状況。マンパワー低下による教育現場への影響は。

教育長…中学校の統合にあたり、どのような町の支援が教育効果を高めるか、現場で聞き取りを行った際、やはり「教員数を増やしてほしい」ということで、当時の町長が町単独の加配を実現した経緯がある。来年度は県の教員配置基準が後退し、少人数学習指導の加配は削減される。一方で、小学校から新たな介助員配置の強い要望が出ているなど、今年度並みの予算枠では富士見

中のマンパワー維持は困難。

質問…全国的に注目された「いじめ対応」をはじめ、きめ細かな生徒対応は県と町の加配で成り立っている。マンパワー低下に対し、町のさらなるバックアップが必要ではないか。

町長…また、教育長とは詳細な中身まで踏み込んだ予算の議論をしていないが、「教育の町ふじみ」を標榜するに相応しい教育は、現状とおりの予算で継続していくと信じている。

■パノラマ経営強化の成果について

質問…強化計画開始以降3年間のグリーンシーズン営業成績の総括は。

町長…昨年のゴンドラ利用客数は前年度比19%増、今年と同23%増。売上もそれぞれ同12%、20%の増。損益は「昨年が3100万円、昨年は2600万円の赤字だったが、今年初めて黒字転換し、300万円のプラスとなった。」

質問…「花の百名山」としての知名度の向上など、外的要因によるものではないのか。強化計画が山頂駅付近の誘客に貢献したというデータは。

産業課長…今年10月時点で、ツアー客数は95%増。山頂駅付近のスズランやホテイアツモリソウ、山野草公園が仕掛けになったと認識している。

□その他の質問

*インターネットでの情報発信について